



## スイスにおける仲裁の長い伝統

スイスが国際仲裁に好ましい土地として人気が高いことは、政治的中立性と平和的な紛争解決の長い伝統を源泉としています。

**スイス国際仲裁の始まり：**アメリカの南北戦争におけるイギリス政府の行為に起因して生じた損害の賠償をアメリカがイギリスに対して請求したことに国際仲裁の起源があると考えられています。**アラバマ号事件**として知られるかかる請求に関しては1872年にジュネーブで仲裁廷により判断がなされました。これに比べてあまり知られていないことは、スイスの裁判外紛争解決手続の伝統が中世まで遡ることです。

**19世紀、20世紀における仲裁の大幅な増加：**19世紀、20世紀の国際取引の拡大に伴い、1865年に設立された**ジュネーブ商工会** (CCIG) や1911年に設立された**チューリッヒ商工会** (ZCC) を含む多くの商工会がスイスで設立されました。取引の紛争の解決を促進するために、これらの商工会はリベラルな州仲裁法に基づき仲裁規則を採用しました。1958年ニューヨーク条約（スイスは1965年に批准しました。）の発効により、国際仲裁の利用は一層増加しました。

**1989年のスイス国際私法に関する法律の発効：**国際仲裁の仲裁地としてのスイスの魅力を増大させるため、スイスは現在でも広く評価されている国際仲裁のための連邦法の枠組みである**スイス国際私法に関する法律12章**を1989年に導入しました。

**2004年のスイス規則の導入：**2004年1月1日、バーゼル、ベルン、ジュネーブ、ローザンヌ、ルガーノ及びチューリッヒ（さらに2008年にはヌシャテル）の商工会が、スイスの機関仲裁の促進を図るために**スイス国際仲裁規則**（スイス規則）を共同で採用しました。もともとはUNCITRAL仲裁規則に準拠したものであったものの、スイス規則（2012年に改正）は、強固な機関仲裁の枠組みを規定し、現代的で革新的な姿勢を持つことで知られています。

**現在及び未来：**スイスには様々な法制度の下で訓練を受け、国際的なビジネスのニーズに馴染んだ経験豊かな仲裁の専門家が数多くいます。スイス仲裁協会（ASA）にはスイス仲裁に興味のある1000人以上の会員がおり、彼らの3分の1はスイス国外を拠点としています。2000年にはASAの若手メンバーは若手実務家のための特別な部会（ASA Below 40）を立ち上げました。ASAは学問的な出版物（ASA Bulletin、ASA Special Series）や会議、ワークショップの組織を通じて仲裁の発展と会員の継続的な教育に寄与しています。スイスでの仲裁分野の訓練や教育の機会としては、**Swiss Arbitration Academy**や**ジュネーブ大学の国際紛争解決についてのLL.M. (MIDS)**があります。将来を見据えて、スイスの仲裁利用者や経済界のニーズを仲裁サービスが満たすようにするためにスイスは国際仲裁の発展を注意深く見守っています。そして、「実施経験」を積み始めてから最初の25年が経過してもなお、スイス仲裁法は、簡便で効率的な世界標準で有り続けています（「スイス仲裁法は現代的で柔軟」をご参照ください。）。